



114
A 797
2

極秘 第一種 陸軍部 陸軍大臣 陸軍少尉 田中 新助 報告

明治三十一年七月六日清國芝罘發

陸軍少尉 田中 新助 報告

過ル六月二十六日ヲ以テ取調ラ終ヘタル金島半島内ノ露國兵數及兵艦數、船名、各砲臺、兵營内ノ砲數左ノ通リトス

附威海衛及沂州府ノ近況
旅順口 陸兵三千三百名 (歩兵別千餘シ)
騎兵四百三十名

憲兵二十名
左各砲台砲兵二百四十名
左街北頭營内砲兵四百八十名
合計四千四百七十名 外ニ清ノ巡捕二十名

265
4-2



大連灣

陸兵八百名

騎兵百二十名

在各砲台砲兵三百名

憲兵十名

合計一千二百三十名

外清ノ巡捕十名

皮子窩陸兵六十名

騎兵五十二名

憲兵十名

合計百二十二名

外清巡捕十名

總合計五千八百二十二名 外清巡捕十名

其他人夫、如キハ終始増減アリテ計算不定過ル六月二十六日即チ取調結了ノ日露ノ商船「サラード」ハ工匠七十人牛馬三十一頭木車四十二輛積載シ来リ

ト即今諸建築後起ノ折柄人負物質トナク日々其増加ヲ見ルハ勿論ナルヘシ當時露官ハ日夜工事ヲ督促シテ建築ヲ取急タト虽此七月上旬琿春、波黎、吉林地方ヨリ陸路ヲ来進スル歩騎兵約三千四百人ノ宿舎ナク大ニ困難シ其電報ニ接スルト同時ニ露ノ通譯官「カリソフ」清國道署ニ来リテ該署ノ花園及其附屬ノ家屋ヲ借ラン丁ラ亦ム果シテ然リトスレハ數日ナラスシテ復タ此増兵ヲ見シカ

砲數及場所(口径寸ハ清人)

旅順口砲台砲數

黃金山砲台

十一寸口径大砲二門

八寸七口径大砲二門

六寸口径中砲八門

機器砲 六門

計 拾八門
威遠砲台

十二寸口径大砲一門
六寸口径快砲八門

八寸七口径大砲二門
機器砲 四門

計 拾五門
寶子營砲台

十一寸口径大砲二門
四寸五口径快砲十二門

六寸七口径中砲八門
格林砲 二門

計 二十四門
饅首山砲台

十一寸口径大砲二門
四寸五口径快砲八門

六寸七口径中砲六門
格林砲 四門

計 二十門
旅順露砲管砲墩

九寸七口径大砲四門
六寸口径快砲十二門

八寸口径中砲十二門
四寸五口径快砲十四門

計 四十二門
大連灣砲臺砲墩
內砲車付，短輕砲二十門

十一寸口径大砲二門

八寸七口径中砲二門

計 二十二門
格林砲 二門

六寸口径快砲八門
四寸口径快砲八門

紅岩子砲臺
十一寸口径大砲一門

八寸口径中砲六門
六寸七口径快砲十門

格林砲 二門

格林砲 二門

四寸五徑快砲六門
 計二十五門
 平頂山砲臺
 十二寸口徑大砲一門
 六寸七口徑快砲八門
 計十七門
 老龍頭砲臺
 十二寸口徑大砲一門
 九寸口徑中砲四門
 八寸四口徑快砲四門
 計拾八門
 總計二百一門
 雜件
 九寸口徑中砲四門
 機器砲四門
 十寸口徑大砲一門
 機器砲四門
 六寸七口徑快砲四門

一 過ル六月十八日及二十日在旅順ノ兵艦ヲ以テ該地
 近海ニ於テル操砲演習ヲ施行ス
 二 六月二十六日清艦飛霆石炭ヲ積載シテ威海
 衛ヨリ旅順ニ至ル際英國武官五名該地ニ
 遊歴セントシ露官ノ察知スル所トナリ軍事ヲ探
 偵ス者ト見ナサレ清艦ノ港内ニ入ルヲ容ルサス已
 ムヲ得ス再ヒ威海衛ニ引返シ英員上陸ノ上更ニ
 六月廿八日ヲ以テ旅順ニ向ヒ石炭ヲ陸揚スルヲ得タ
 リ
 三 即今(時日不明)山東省沂州府ニ於テ飢民蜂起
 ノ報アリ土匪馬賊之ニ和シ到ル處搶掠ス不
 度ニ在ル東軍若干兵ヲ派遣ス營務所汪氏モ亦
 之ニ卦ク

四、威海衛ノ近情(七月一日該地ヨリ歸芝ニ免日本人ノ詳

話)該地ニ在ル軍艦左ノ如シ

軍艦二隻(ビクトリア) 水雷艇 一隻

外ニ清艦二隻

同地ニ在リシ英國芝罘領事ハ過ル六月二十日該地

ヨリ北京ニ封ケリ

劉公島ノ棧橋(半壞ノ外)ハ殆ント支那人夫ヲ以

テ修理ヲ終ラントス又其西方約五百米突ノ處ニ

英兵ノ手ニテ成ル小阜頭ヲ築造セリト思フニ

是レ石炭揚卸ノ為ナラント(元清國ノ残り)

威海衛北門外ノ兵營ハ英兵ノ監視ヲ以テ全ク

崩壞シ終リ其材木ヲ海濱ニ輸送シテ芝罘ニ

運送セリ寨子屯ノ外ハ未タ崩壞セス王家庄ノ

火

残餘ヲ之ニ轉送シ更ニ日ヲ擱ニテ之ヲ崩壞スト

即今之ヲ監視スル者ハ英兵ナリ

威海城内ノ電信ハ全ク竹島ニ於テ之ヲ取扱フ

劉公島内ハ町名ヲ定メ官地民有家屋ノ者ニシテ

入用ノ者ハ取リ崩シ持テ去ルヲ余セリト着々該

地ノ整理ヲ見ル

司法行政官ハ元「カー」ニサス「艦長」キンホール及「ガシ

ド」両氏ナリト云フ

清英ノ兩艦今ニ揚ケラル別ニ大築造ナシ

(了)

